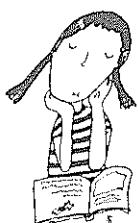


青少年の非行問題と

地域・家庭教育の課題

岩城吉幸氏（元県立希望ヶ丘学園長）



私は長い間、問題のある児童、生徒とかかわりながら仕事をしてきました。今日は、そういう経験をもとに、私が感じたことをお話ししたいと思います。

今や、青少年の非行問題は、新聞などマスコミで報道されているように、大きな社会問題となっています。国や地方公共団体も、いろいろな対策は講じていますが、いつこうに減っていないのが現状です。

最近の非行の特徴は、年齢が非常に下がってきたことや集団化などがあげられ、また動機が単純で遊び型の傾向が強く出ていることです。

そういう問題行動をとる子どもたちに共通している意識は……

教師に反抗的で避けようとする。
②罪の意識が薄く、何度も同じことを繰り返す。

③成就意識に欠け、できる力がありながら、最後まで努力することなくすぐ放棄してしまう。

④りっぱな人に対して敬愛の念を持たず、自分は違った世界に住んでいると考える。

⑤自分はダメな人間であり、みんなから嫌われていると考えてしまふ。

以上五つが、大きな特色としてあげられます。そして、こういう子どもたちは、放任主義の家庭、過保護の家庭に多いようです。

私たちが非行少年を見る場合、

最近の家庭は、核家族化が進み

兄弟が少なく、また物も豊かにな

りました。しかし反面、これは家

庭教育にはマイナス面となっていました。

家庭教育は人間教育の基本と言

われますが、今、その家庭の機能

が弱っています。その大きな理由

の一つに、父親の権威がなくなっ

たことがあります。なぜそう

なったか。最近、子どもが親の崩

く姿を見ることが少なくなったこ

んで問題行動をとるようになった

子はいません。確かにそうさせる

原因があるわけです。

では、いったいどこにあるのか。

いろいろ言われますが、一番考え

なければならぬのは「家庭」で

はないかと思います。

非行に走った子どもを、力で抑

えることはできません。それは一

時的なものすぎません。問題行

動をとるようになつた原因を突き

止め、それを取り除いてやればお

のぞと症状は消えてくるものです。

最近の家庭は、核家族化が進み

兄弟が少なく、また物も豊かにな

りました。しかし反面、これは家

庭教育にはマイナス面となっていました。

家庭教育は人間教育の基本と言

われますが、今、その家庭の機能

が弱っています。その大きな理由

の一つに、父親の権威がなくなっ

たことがあります。なぜそう

なったか。最近、子どもが親の崩

く姿を見ることが少なくなったこ

とや、母親が父親の悪口を言つたりすることが原因していると思います。

親はもっと、子どもに、その真剣な生きざまを見せてください。

そして、頼りがいのあるお父さん、やさしいお母さんになつてください。

次に、子どもはどう見るべきか。

一番大切なことは、偏見や固定観念で見ず、子どもの良さを探すことです。このことは、私自身が子どもに教えられたことです。

日本のしつけは、大きくなるにしたがい厳しくしていく方法ですが、西洋は小さい時に厳しく、その後は自立心を育てていくやり方で、私は後者が理想と考えます。

まず、小さい時に耐えること、がまんすることを教え、社会のルールを家庭生活の中でしっかりと身につけさせる。そしてそれから、子どもたちの良さを見つけて出し、その能力を伸ばしていくことが大切です。

家庭の機能が弱っている今、地域の果たす役割も重要です。近所どうしが手をつなぎ、ふだんから物が言い易い雰囲気をつくっています。そのため、子どもたちの非行防止の一つに、父親の権威がなくなつたことがあります。なぜそうなったか。最近、子どもが親の崩く姿を見ることが少なくなったこ